

## 2006年度「卒論報告会」

ゼミの恒例行事となった2006年度「卒論報告会」を1月17日に207教室で行った。卒論提出は12日が締切りであったが、それまでは落ち着かない日々がつづいた。ゼミ生全員が無事に提出したのを確認すると、やはりほっとしたものだ。

今年度の卒論はまちづくりや都市問題、市町村合併がテーマである。まちづくりが多いのは最近の傾向であり、わたしの関心とともに「時代」を反映しているかもしれない。



ゼミの「看板」として卒論指導に力を入れてきたが、全体としてレベルも上がってきているようだ。「厳しい」指導によく耐えて、苦勞の末に卒論をまとめたゼミ生たちは、いつもとは違う表情が見られた。教師としての喜びを感じるひと時であり、今年はとりわけ強く喜びを感じた。

今年は豊富なヒアリングの成果をふんだんに活用した100ページを超える「大作」、多くの統計資料を収集・分析したもの、写真をうまく取り入れたビジュアルなものなど、読みごたえのある論文が多かった。これは報告会にもあらわれ、25分の「もち時間」一杯を使って報告するものが多く、質疑の時間が取れなかった。3年生の「ミニ報告」を含め4時間余りの報告会は、じつに実りあるものであった。新たにゼミに加わる2年生なども含めて、大いに勉強になったという感想が多く、成果は後輩に引き継がれていくものと思う。緊張感あふれる報告会のあとは、これも恒例行事となった「當屋さん」での懇親会へとつづいた。

(2007年1月31日 記)